

だれひとり同じではない、それぞれの人生のために。



医療法人(社団) 佐藤病院



長島中央病院



介護医療院

企業概要

理事長

佐藤 剛一氏



所在地 三重県桑名市大央町21番地15

TEL:0594-23-3547 FAX:0594-23-3537

設立 1975年12月

従業員数 450名

事業内容 医療・介護

U R L <https://www.sato-group.jp/>

「三方よし」をモットーに、高齢者の医療と介護に特化した施設を開発し、利用者に選択肢の多いサービスを提供。

北勢エリア初の介護医療院

医療法人(社団)佐藤病院は、1975年12月に現理事長の佐藤剛一氏が佐藤医院として創業。現在は佐藤病院グループとして老人保健施設や通所リハビリテーションなど、8つの施設(※1)を運営し、地域住民にとって必要な福祉サービスを提供している。2020年4月には、グループの長島中央病院内に、北勢エリア初となる介護医療院を開設した。

介護医療院とは、長期医療と

介護を必要とする高齢者を対象として、終末期医療や看取りを含めた「医療」と「生活施設」の機能を兼ね備えた施設である。入居者が長期間を過ごす場となることを想定し、介護療養病床を1フロアから2フロアへ改裝することにより、病床数を増えず1床当たりのスペースを広げ、病室の6割を個室に変えた。同時に食堂やリハビリスペースを

スを拡張し、談話スペースの設置や入居者が自由に使うことができるネット環境の整備など、入居者にとって住み心地のよい環境づくりに取り組んだ。

また、同院は、最期の時をどこで迎えるかを入居者自身や家族が選択できるように施設ケアにも在宅ケアにも対応できる体制を整えている。その対応力の高さから、他の病院からの紹介による入居も多く開設後4ヶ月すでに満室となっている。

佐藤理事長は、「国は施設介護より、在宅介護を推奨している。しかし、自宅で介護を行うこ



介護医療院のロビー



介護老人保健施設ことぶき

より、子育て世代の復職が増え、2018年には三重県から女性が働きやすい医療機関に認証されている。

人材確保と人材育成

「介護業界の未来を見据えて」

介護職は、やりがいや社会的意義などで評価の高い職業である一方で、負担感や働く環境については、マイナスのイメージが強い。そのため、子どもが仕事内容に興味を持つても親が就職を勧めないケースも多いという。また、少子高齢化が介護業界の人手不足問題をより深刻にしており、人材の確保が重要な課題となっている。

◆外国人材は未来の介護業界の支えに

佐藤病院では、外国人材の雇用も積極的に行っている。技能実習生については、介護の技能実習制度が始まる約5年前から、独自にペトナムで介護人材を確保してきた。

さらに、外国人介護福祉士奨学生制度を独自に構築し、留学生を奨学生として採用している。

相手よし、自分よし、世間よし

佐藤理事長は、近江商人の哲学である「三方よし」をモットーにおいて売り手と買い手が満足することは当然のことであるが、それに加え社会貢献もできるのがよい商いである」という意味で

百五銀行 桑名支店長
五十嵐 靖尚**支店より一言**

佐藤病院グループによる介護医療院が北勢エリア初の開設となり、桑名地区が「地域医療構想」の条件を満たす地域となつた社会的意義は大きいと思います。

文=調査グループ 岡澤初樹

用いられている。「職員、患者さんに喜んでいただくのはもちろんのこと、世の中に喜んでいただくことも大切である。職員にもそのことを心がけるように話している」と佐藤理事長。

職員や利用者、地域と共に創しながら、多くの人の支えとなつていただろう。

また、今年は、介護の専門学校の留学生が介護福祉士の国家試験に初めて合格し、新入職員として新たなスタートを切った。介護福祉士を目指す留学生や実習生のお手本となつていてることが期待されている。



保育園児と利用者の交流



桑名市内には、桑名市総合医療センターが2018年4月に開設しており、佐藤病院グループによる介護医療院の開設で、桑員地区(桑名市・いなべ市・東員町・木曽岬町)は「地域医療構想(※2)」の条件を満たす全国に

「自宅」とされるため、そのような人の受け皿になることができると話す。

地域のなかで果たす役割

少なくない。介護医療院は診療報酬上の扱いが施設ではなく「自宅」とされるため、そのような人の受け皿になることができると話す。

全国の介護医療院で初めてとなる患者を見守るICTシステムを導入

介護医療院を開設するにあたり入居者のプライバシーを確保するための病床の個室化を進めたが、併せて利用者の急変や転倒などの事故をいち早く察知できるよう、見守りシステム「HitomeQ」(コニカミノルタ)を介護医療院として、全国で初めて導入した。

各ベッドの天井に取り付けられたセンサーにより、24時間ベッドで寝ている入居者の胸の動きから体動異常を探知することが

可能であり、異常発生時には、職員のスマートフォンに通知され、室内の状況や入居者の状態を映像で確認できる。また、職員はスタッフと情報共有ができるようになつた。

さらに、事故時のエビデンスを残すことができるため、入居者だけでなく、職員を守ることに安心できる環境を整えることができたといえる。

さらに、事故時のエビデンスを残すことができるため、入居者だけでなく、職員を守ることに安心できる環境を整えることができる上、リアルタイムで他のスタッフと情報共有ができるようになつた。

さらに、事故時のエビデンスを残すことができるため、入居者だけでなく、職員を守ることに安心できる環境を整えることができる上、リアルタイムで他のスタッフと情報共有ができるようになつた。

その1つが、3年前に開設したマートフォンから、ケア記録を作成できる上、リアルタイムで他のスタッフと情報共有ができるようになつた。



保育園児と利用者の交流

も数少ない地域の1つとなつた。介護医療院が地域で果たす役割は、ますます大きくなつていくと思われる。佐藤成剛副理事長は「介護医療院の開設は北勢エリアでは初めてであり、業界や自治体からも注目されている。私たちで作り上げるという気持ちで、介護医療院を成熟させ、地域に安心を与えられる存在になりたい」と意気込みを語る。

も数少ない地域の1つとなつた。介護医療院が地域で果たす役割は、ますます大きくなつていくと思われる。佐藤成剛副理事長は「介護医療院の開設は北勢エリアでは初めてであり、業界や自治体からも注目されている。私たちで作り上げるという気持ちで、介護医療院を成熟させ、地域に安心を与えられる存在になりたい」と意気込みを語る。

さらに、事故時のエビデンスを残すことができるため、入居者だけでなく、職員を守ることに安心できる環境を整えることができる上、リアルタイムで他のスタッフと情報共有ができるようになつた。

さらに、事故時のエビデンスを残すことができるため、入居者だけでなく、職員を守ることに安心できる環境を整えることができる上、リアルタイムで他のスタッフと情報共有ができるようになつた。

佐藤病院は、職員の9割を占める女性が働きやすい職場づくりを目指すため、現場の意見を取り入れながら、ワークライフバランスを重視した取り組みを行っている。

佐藤病院は、職員の9割を占める女性が働きやすい職場づくりを目指すため、現場の意見を取り入れながら、ワークライフバランスを重視した取り組みを行っている。また、音楽と触れ合いながら、心身の成長を促すリトミック保育や英語教室、体操教室なども行つており、認可保育園と同等以上のサービスが受けられる。

さらに、小学生を対象に院内に学童保育も開設している。夏季休暇など、長期休暇や不測の事態でも職員が安心して働けるようになつていている。これらの取組に前まで預かっている。夜間や土日祝も利用できるほか、費用面でも他の保育園に比べ安く設定されている。また、音楽と触れ合いながら、心身の成長を促すリトミック保育や英語教室、体操教室なども行つており、認可保育園と同等以上のサービスが受けられる。

※2 地域医療構想
将来人口推計をもとに2025年に必要となる病床数を4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組みのこと。
参照:全日本病院協会